

成果指標				
成果指標	健康増進事業の利用者数(健康相談利用者数+健康教育参加者数+訪問指導+がん検診)を実績指標とする。			
指標設定の考え方	健康増進事業への参加者数の増加は、健康増進活動への意識の向上に繋がる。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目 標	11000	11000	11000	0
実 績	11769	12446	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	健康増進のためには、ライフステージ、家庭環境など、個々の生活スタイルに見合った健康づくりの方法を見つけ、無理なく継続していく必要があります。個人の健康づくりに対する関心を高めるとともに、地域においても健康づくりの輪が広がるのが大切だと思われる。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	各種検診の受診率の向上や生活習慣改善の保健指導等、また、個々の指導に重点を置いた支援も必要であり、庁内関係課や関係機関と連携し、継続した取り組みが必要である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・自己評価はCとなっているが、低いと思う。市民健康増進事業は重要なものなので、Cよりも上ではないかと思う。・保健センターが中心となって、男性の参加も含む、全市民が参加できる健康体操のようなものを考案してはどうか。市民レベルで集まり、楽しく体操をすれば、健康予防にすごく良いと思う。・健康増進事業と言えば健診である。健診率を高めて病気の人を早く治してもらい、医療機関に払う医療費を安くしてほしい。・成果指標の目標と実績はよく分かるのだが、24年度の実績が既に超えているなら、25年度はさらに増やすべきだと思う。・所属長の課題認識が一般論の域を出ていない。もう少し具体的に言及すべきところがあったのではないか。・事務事業の評価で「勸奨」という日本語が使われている。違和感を覚えるのだが、その単語が定着しているのであれば、言葉の説明をされても良いと思う。</p>
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>さらに重点化する。</p>
<p>意見、課題</p>	<p>がん検診の受診者を増やすこと。</p>